

# 論文 日本コンクリート工学年次大会 2006 新潟大会における和文原稿作成 テンプレート

南谷 伝蔵\*1・乗鞍 英麿\*2・鞍乗 磨英\*3

**要旨**：4～7行まで。要旨は論文の内容と結論とを最も簡潔に伝え、しかも論文中に含まれるすべての新しい情報に言及するようにする。序論の一部ではないことに注意しなければならない。要旨の表現に対する根本的な要請は、論文の主題についてかなりの程度の知識をもっている読者であれば本文を見ないで要旨だけを読んでも理解できるように書くということである。したがって、広く使われていない略記法、記号、述語を使ってはいけない。本文中の式、図、表、文献などは引用すべきでない。式を引用する必要がある場合は式そのものを書くこと。

**キーワード**：定着鉄筋、載荷速度、のようにカンマで区切って一行以内に書く

## 1. はじめに

本原稿の本文は、和文原稿の執筆要領の概要を示したものである。詳細に関しては、執筆要領で確認願います。

原稿は、A4 サイズ横書き 40 行×2 段組、余白は上 25mm、下 20mm、左 22mm、右 22mm に指定して作成する。文字のフォント種類は MS 明朝・MS ゴシック (Windows, Macintosh)、細明朝・平成明朝・中ゴシック・平成角ゴシック (Macintosh) とし、英数字等には Times・Times New Roman・Arial・Helvetica・Symbol (Windows, Macintosh) を使用してよい。その他の種類のフォントについては PDF ファイル作成時のフォント埋込みが正常に行えない場合があるので使用しないこと。

## 2. 原稿の書式について

### 2.1 題目・著者名・要旨・キーワード

#### (1) 論文・報告の種別と題目

論文・報告の種別を第 1 ページ 1 行目に左寄せで記入し、その後 1 文字空けて題目を記載する。フォントの種類は MS ゴシック (Windows,

Macintosh)、中ゴシック・平成角ゴシック (Macintosh)、Arial・Helvetica (Windows, Macintosh) とし、大きさは 14 ポイントとする。題目が 1 行に収まらない場合は、2 行目の左から 4 文字目から続きを書き始めること。

#### (2) 著者名と所属

著者は題目から 1 行空けて、中央揃え (センタリング) で記載する。文字のフォント種類は MS 明朝 (Windows, Macintosh)、細明朝・平成明朝 (Macintosh)、Times・Times New Roman (Windows, Macintosh) とし、大きさは 10.5 ポイントあるいはそれに最も近いものとする。所属先については、各著者の右肩に付した\* (アスタリスク) + 数字に対応する脚注とし、「勤務先名 所属部署 肩書 学位 会員表示」を示すこと。

#### (3) 要旨およびキーワード

要旨は 1 段組とし、著者名から 1 行空けて、ゴシック体 (MS ゴシック (Windows, Macintosh)、中ゴシック・平成角ゴシック (Macintosh)) の「要旨：」に続けて記載する。このとき、左右両端を 2 文字ずつ空け、長さは 4 行～7 行までとする。

---

\*1 城北大学 工学部土木工学科助教授 工博 (正会員)

\*2 東西建設 (株) 建設事業本部設計課長 工修 (正会員)

\*3 南北コンサルタント (株) 第一設計部 (正会員)

フォントの種類および大きさは本文と同一とする（「2.2 本文」を参照のこと）。キーワードは1段組とし、要旨のすぐ下の行にゴシック体（MSゴシック（Windows, Macintosh）、中ゴシック・平成角ゴシック（Macintosh））の「キーワード：」に続けて1行以内で記載する。フォントの種類および大きさは本文と同一とし、各キーワードをカンマ（,）で区切る。

## 2.2 本文

本文はキーワードの後に1行空けて2段組で記載すること。フォントの種類はMS明朝（Windows, Macintosh）、細明朝・平成明朝（Macintosh）、Times・Times New Roman（Windows, Macintosh）とし、大きさは10.5ポイントあるいはそれに最も近いものとする。章、節の見出しは左端から、項の見出しは1文字空けてから書き出す。また、番号とその後のスペースは半角で記載し、それだけで1行とること。見出しのフォント種類はゴシック体（MSゴシック（Windows, Macintosh）、中ゴシック・平成角ゴシック（Windows, Macintosh）、Arial・Helvetica（Windows, Macintosh））とし、大きさは10.5ポイントあるいはそれに最も近いものとする。また、各章の見出しの上側は1行空けること。

## 3. 数式・単位・図表について

### 3.1 数式

極力簡潔にまとめ、式は3文字空けてから書き始める。式番号は(1)、(2)、(3)とし、式の最後に右寄せにして記す。文中での呼称は、式(1)、式(2)とする。表記例を以下の式(1)に示す。

$$y = a \cdot x^2 + b \cdot x + c \quad (1)$$

### 3.2 単位について

単位はSI単位とする。

### 3.3 図・表・写真について

#### (1) 番号とタイトル

タイトルのフォント種類はゴシック体の和文（図-\* 和文）または太文字の英文（Fig.\* English）で統一し、大きさは本文と同一とする

こと。文章中の引用においても必ずゴシック体の和文（図-\*）または太文字の英文（Fig.\*）で統一すること。図・写真の番号・タイトルは図・写真（位置）の下に、表の番号・タイトルは表の上に記載すること。

#### (2) 配置

図・表・写真は、本文に近いところに配置し、ページ幅一杯にならない図・表は右側に寄せて配置すること。また、本文と区別できるように、番号・タイトルを含む領域の上下を本文から1行以上空け、左側に本文が入る場合には、本文から各行2文字分空けること。

#### (3) 色と解像度

図および写真は、カラーを使用するのは構わないが、冊子版の論文集は白黒印刷されるため、原稿作成時に白黒印刷して内容が理解できることを確認すること。また、原稿に貼り付ける写真の解像度や色数は、原稿のファイルサイズに影響するので、必要最小限にとどめること。

#### (4) その他

冊子版の論文集はA4版のPDFファイルをB5版に縮小して印刷するので、図-1および表-1に示すように、図・表中の線の太さや文字の大きさに留意すること。図・表中の文字は、出来れば本文と同一の大きさとするのが望ましい。

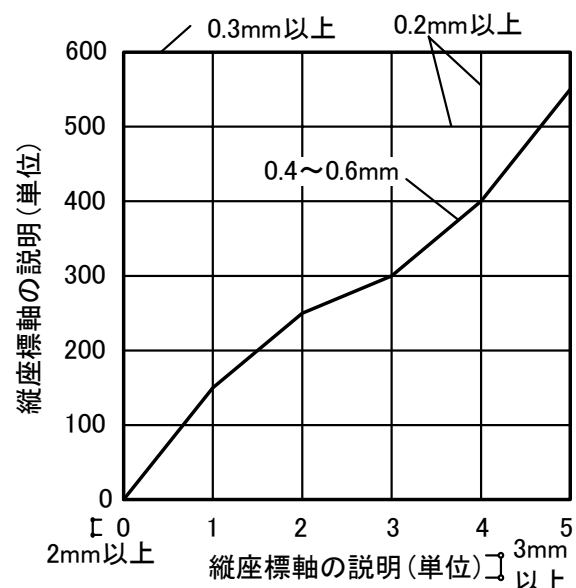


図-1 図の良い例と作図参考寸法

表-1 表の作成例

組骨材の 最大寸法 (mm)	スランプ (cm)	水セメン ト比 (%)	空気量 (%)	細骨材率 (%)	単位量 (kg/m <sup>3</sup> )				
					水 <i>W</i>	セメント <i>C</i>	細骨材 <i>S</i>	粗骨材 <i>G</i>	混和剤 <i>A</i>
20	8	47	4	35	150	319	650	1217	0.798
30	8	44	4	34	152	334	636	1214	0.834
40	8	44	4	34	153	348	621	1210	0.870

内容上どうしても同一ページに載せる必要がある場合を除き、複数の図表のみのページを作ることのないよう、割付けに配慮すること。

#### 4. 参考文献について

##### 4.1 参考文献

参考文献は、投稿時に既発表のものに限る。引用したり、参考とした文献名は、使用順に 1), 2) のように番号をふり、「結論」あるいは「まとめ」の後にゴシック体（フォントは本文の章、節、項の見出しと同じとする）の「参考文献」を表示した後、まとめて掲げること。

文献番号は、本文中または引用した図・表・写真のタイトルの最後に、上付数字で<sup>1),2),3)</sup>・・・のように明記しておくこと。

##### 4.2 記載方法

###### (1) 論文等の場合

著者名：題名，誌名，Vol.，No.，掲載ページ，発行年月の順とする。

###### (2) 単行本の場合

著（編）者名：書名，発行所名，掲載ページ，発行年月の順とする。

###### (3) 著者名

和文文献の著者名は必ずフルネームを記す。連名者が多い場合には、筆頭著者以外を「ほか」と省略してもよい。

欧文文献の著者名は、姓を先に記し、名はカンマの後にイニシャルで示す。連名者が多い場合には、筆頭著者以外を「et al.」として省略してもよい。

###### (4) 発行年月

和文文献の場合、西暦に統一して、1988.11, 1991.2 のように記す。欧文文献では、Nov.1988,

Feb.1991 のように記す。

#### 5. PDF ファイルの作成

PDF ファイルの作成および注意事項を以下にまとめる。

- (1) Acrobat Distiller または Adobe PDF（アドビシステム社：Adobe Acrobat に付属）でフォント埋め込みを使用して PDF ファイルに変換する。変換方法の詳細については、ホームページの PDF 作成方法（「電子投稿のページ」(<http://www.jci-net.jp/rally/2006/denshi/index.htm>)）の「FAQ」に掲載）を参照のこと。
- (2) PDF ファイル変換後、フォントの埋め込みがされていることを必ず確認すること。確認方法の詳細については、ホームページの PDF 作成方法（「電子投稿のページ」(<http://www.jci-net.jp/rally/2006/denshi/index.htm>)）の「FAQ」に掲載）を参照のこと。
- (3) Acrobat PDF Writer は、フォント埋め込み等の細かい設定が出来ないため、使用を禁止する。
- (4) PDF ファイルの容量は 750 キロバイト以下とし、これを超えたものは受け付けない。
- (5) PDF ファイルが 750 キロバイトを超えた場合の対策としては、
  - a) PDF ファイルへの変換時の「カラービットマップ」もしくは「グレースケールビットマップ」の解像度（デフォルトは 72dpi）の設定を小さくする。詳細は PDF 変換のインストラクションを参照のこと。
  - b) 原稿に貼り込んだ写真の解像度および色数を小さくする。写真を白黒にする。

(写真を貼り込んだ後に縮小しない)

- (6) 図および写真は、カラーを使用するのは構わないが、冊子版の論文集は白黒印刷されるので、原稿作成時に白黒印刷をして内容が理解できることを確認すること。なお、CD-ROMの論文集は、最終原稿提出時のPDFファイルがそのまま掲載される。
- (7) PDFファイルへの変換後に印刷して、原稿のイメージが変わっていないかを必ず確認すること。特に、PDFファイルへの変換後にページ数が異なる場合があるので、よく確認すること。

#### 参考文献（記載例）

- 1) 小林一輔，魚本健人，嶋 文雄：コンクリート混和材としての高炉水砕スラグ粉末の品質がコンクリートの圧縮強度ならびに乾燥収縮に及ぼす影響，コンクリート工学，Vol.17，No.5，pp.87-95，1979.5
  - 2) 森田司郎ほか：RC 外部柱・梁接合部の耐力と変形性状，コンクリート工学年次論文報告集，Vol.9，No.2，pp.175-180，1987.6
  - 3) 岡田 清，六車 熙編：コンクリート・ハンドブック，朝倉書店，1981
  - 4) Malhotra, V. M.: Superplasticized Fly Ash Concrete for Structural Applications, Concrete International, Vol.8, No.12, pp.28-31, Dec.1986
  - 5) Collins, M. P. and Mitchell, D.: Shear and Torsion Design of Prestressed and Non-Prestressed Concrete Beams, PCI Journal, Vol.25, No.5, pp.32-100, Sep./Oct.1980
- 1) 小林一輔，魚本健人，嶋 文雄：コンクリート混和材としての高炉水砕スラグ粉末の品